

南丹地域振興計画

京都府南丹広域振興局

目 次

- 1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）
- 2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト
- 3 「わくわくする京都丹波」の実現に向けた対応の方向性
- 4 具体的施策

南丹地域振興計画の数値目標

参考資料

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）良質な「食」

- ・京都丹波地域は、千年以上にわたり京の都の食文化を支える食材の一大供給地であり、京のブランド産品（農産物）の出荷額は府内の約４割、畜産物の産出額は府内の約６割を占めています。
- ・新丹波黒、丹波大納言小豆、丹波くりをはじめ、あゆ、そば、ジビエなど四季折々の特産物に恵まれ、食が地域の魅力として定着しつつある中、地域産品のブランド化や食を目的とした観光誘客など、更なる多様な展開の可能性を有しています。

（２）豊かな自然と歴史文化

- ・京都丹波高原国定公園や芦生の森をはじめとする広大な森林、桂川・保津川の水辺空間、茅葺きの美しい里山景観など、都市近郊でありながら豊かな自然環境が広がっています。
- ・また、亀岡祭山鉦行事や田原の御田、和知人形浄瑠璃等、歴史的な行事や伝統芸能が数多く伝承されており、自然と歴史に育まれた文化が地域の魅力を生み出しています。

（３）多様なスポーツ資源

- ・府立京都スタジアムや府立丹波自然運動公園、京都トレーニングセンターなどの府の中核的なスポーツ拠点が所在し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境が整っています。
- ・さらに、豊かな自然環境や地形を生かしたウォーキングやサイクリング、ラフティング、パラグライダー等のアウトドアスポーツが普及し、健康づくりや交流促進にもつながっています。

（４）地域の未来を切り拓く人材

- ・農業や林業をはじめとして商工業、観光、教育、文化芸術、スポーツなど幅広い分野で、地域資源を生かした商品開発や地域課題の解決、地域コミュニティの活性化などに取り組む「キラリと輝く人材」が活躍しており、明日の京都丹波を担う地域の財産となっています。
- ・京都先端科学大学、明治国際医療大学など、食農分野をはじめ環境、ものづくり、医療、建築等の特色ある大学や大学校等が所在し、多様な人材が学び、活躍できる環境が整っています。

（５）広域交流を支える交通ネットワーク

- ・京都府の中央に位置する京都丹波地域は、古くから府中北部と京阪神地域を結ぶ交通の要衝として発展してきました。平成 22（2010）年 3 月の J R 山陰本線京都一園部間の複線化、平成 27（2015）年 7 月の京都縦貫自動車道の全線開通等、鉄道と道路の整備により京阪神主要都市との交通の利便性は飛躍的に向上し、交流人口の拡大や企業立地を支える基盤整備が進んでいます。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

京都丹波地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

(1) 京都丹波・食と緑のウェルビーイングプロジェクト

- ・道の駅等の集客拠点が連携した一体的なプロモーションの実施により、「心身の健康を育む食と緑の地域」というブランドイメージの浸透を図ることで、地域の認知度向上と誘客促進につなげます。
- ・東洋医学における、よりよく健康に、楽しく生きる「養生」の考え方にに基づき、豊かな森や清流、食文化など京都丹波ならではの地域資源を生かし、訪れる人々の心と体を整えるウェルネスツーリズムを推進します。
- ・四季折々の旬の食材を用いたグルメや有機農業等による農産物・加工品など健康志向に対応した商品の開発や販売を促進し、地域産品の高付加価値化を推進します。

(2) 自然・歴史文化等の地域資源を生かした体験・都市農村交流プロジェクト

- ・豊かな自然や歴史文化など特色ある地域資源を生かし、子どもたちの京都丹波ならではの探究的な学びや体験機会を創出する「京都丹波STEAM（仮称）」を推進します。
- ・地域外からの教育体験の受入れを推進し、地域外の子どもたちと地域住民との持続的な交流を生み出すことで、若年層を中心とした都市部住民の京都丹波への関心を高め、将来にわたって地域と多様な形で関わる関係づくりを促進します。

(3) 京都丹波スポーツライフプロジェクト

- ・府立京都スタジアムや府立丹波自然運動公園、京都トレーニングセンターなどのスポーツ拠点や、豊かな自然環境を生かし、誰もが生涯を通じてスポーツに親しめる環境の充実に図り、府民の健康・体力づくりを進めます。
- ・スポーツ大会やスポーツイベント、合宿等の誘致に取り組むとともに、ウォーキングやニュースポーツ、eスポーツ、パラスポーツ等を推進し、世代や障害の有無を問わず、スポーツを通じて多様な交流機会を創出します。

(4) 京都丹波の輝く担い手応援プロジェクト

- ・未来の地域産業を支える人材が、京都丹波で働くこと、住むこと、そして新たな挑戦にかける思いを地域内外に発信する「京都丹波の輝く担い手交流会（仮称）」を開催するなど、人材交流と活動発信の場づくりを進め、京都丹波で新たなことにチャレンジする機運を醸成します。
- ・市町の地域商社、商工関係団体等と連携し、京都丹波で輝く担い手のこだわり商品の商談会を開催するなど販路開拓を支援します。
- ・高校、高等教育機関等と連携し、京都丹波で輝く担い手の活動紹介やワークショップ等を通じて京都丹波で働くことの魅力発信を進めます。

(5) 安心・安全と地域活力を支える基盤づくりプロジェクト

- ・京都縦貫自動車道からのアクセス道路など地域の生活や地域産業を支える交通ネットワークの整備を進めます。
- ・治水安全度の向上に向けた河川整備をまちづくりと一体的に推進するとともに、水害等に備えた自主防災組織の避難行動タイムラインの作成支援や、若年層の防災意識の向上と消防団活動への理解促進のための防災教室の開催などを通じて、地域防災力の向上を図り、災害に強い地域づくりを推進します。

3 「わくわくする京都丹波」の実現に向けた対応の方向性

「わくわくする京都丹波」の実現に向けて、4つの柱に基づき施策を推進します。

(1) 暮らしを支える「安心の京都丹波」

- ・府民の誰もが住み慣れた地域でこれからも暮らし続けることができるよう、自然災害をはじめ、家畜伝染病や有害鳥獣被害など、様々な危機事象への迅速・的確な対策を講じるとともに、地域住民の防災意識の向上を図り、災害に強い地域をつくります。
- ・医療・介護・福祉の連携による地域包括ケアを推進するとともに、森林資源や多様な生物の生息環境など自然環境の保全を図り、安心して住み続けられる京都丹波をつくります。

(2) 誰もが希望を持って活躍できる「はぐくまれる京都丹波」

- ・全ての人の人権が尊重され、男性も女性も、障害のある人もない人も、誰もが地域社会の一員としてその能力を発揮でき、住み続けたいと実感できる共生の京都丹波づくりを進めます。
- ・豊かな自然や歴史文化などの地域資源を生かして子どもたちの学びや体験の機会を創出し、子どもたちの地域への誇りや愛着を育み、健やかに成長できる環境づくりを進めます。

(3) 魅力と活力にあふれる「輝く京都丹波」

- ・良質な食や豊かな自然などの多様な地域資源をさらに磨き上げるとともに、その魅力を組み合わせることで、地域に根付き持続的に継承される京都丹波ならではの地域ブランドの価値向上を図り、魅力に惹かれて訪れる人や関わる人が増え続ける京都丹波を実現します。
- ・農業や林業をはじめとする地域産業を支える人材が生き生きと活躍する姿を広く発信し、その取組を応援します。
- ・来てよし・観てよし・住んでよしの地域づくりを進め、地域に関わる全ての人が豊かさと幸福を実感できるウェルビーイングな京都丹波の実現をめざします。

(4) 人とモノの交流を支える基盤となるインフラ網の整備

- ・京都丹波地域の発展を支える交通ネットワークや防災インフラの整備を着実に進めるとともに、道の駅などの交流拠点を生かし、人とモノが行き交う地域づくりを進めます。
- ・京都丹波地域は、広大な山間地域と桂川、由良川の一級河川を有することから、土地利用と一体となった河川改修等の流域治水の取組を計画的に進めるとともに、急傾斜地整備や治山事業の実施など、土砂災害防止対策の推進を図ります。

4 具体的施策

(1) 暮らしを支える「安心の京都丹波」

ア 災害対策の推進

- 水害等に備えた自主防災組織の避難行動タイムラインの作成支援や、若年層の防災意識の向上と消防団活動への理解促進のための防災教室の開催などを通じて、地域防災力の向上を図り、災害に強い地域づくりを推進します。
- 劣化状況評価及び地震・豪雨耐性等評価の結果を踏まえ、老朽化した農業用ため池の改修や利用されなくなった農業用ため池の統廃合を行うとともに、ハザードマップの作成を進めるなど、市町と連携して災害の未然防止を図ります。
- 土砂災害防止法に基づく2巡目以降の基礎調査の実施と土砂災害警戒区域等の指定を順次進めます。
- 令和5年度からアラート情報を配信している水位・氾濫予測システムについて、水位予測の精度向上や予測情報のさらなる有効活用に向けた取組を推進し、市町による早期の避難情報の発令を支援します。
- トンネル、橋りょうなど老朽化が進む各種インフラに対し、点検と補修による予防保全により、インフラの長寿命化を推進します。
- 天引、宍人、内林町及び平松の各地区について、急傾斜地等での崖崩れを防ぐ擁壁等の整備を推進します。
- 工事説明会や見学会等を開催し、地域住民の意見を取り入れながら、道路や河川の整備を推進します。
- 「府民協働型インフラ保全事業」を活用し、地域に暮らす住民の視点から、身近な安心・安全につながる小規模な工事及びインフラの劣化対策を推進します。
- 小学校の授業における道路・河川等の役割の説明や学校近くの工事現場の見学、さらには各種防災イベントや出前語らいにおいて土石流発生や木造住宅耐震施策を模型等で説明することにより、公共施設の機能や重要性、防災対策の必要性について体感的に理解し、防災意識の向上が図られるよう取り組みます。
- 大規模盛土造成地の安全性把握に向けた調査を進めるとともに、宅地造成及び特定盛土等規制法に基づき、危険な盛土等による災害の発生を防止するため、「盛土対策チーム」において、関係部局が連携した盛土対策の推進を図ります。
- 原子力災害に備え、市町や関係機関と連携した広域避難訓練の実施や避難路の整備を進め、広域避難計画の実効性を高めます。
- 南丹地域災害医療連絡会の開催や災害医療訓練の実施により、災害時における南丹地域の医療体制の強化や、災害医療の人材育成等を図ります。
- 災害時要配慮者の避難を円滑に行うため、市町における個別避難計画の作成を促進するとともに、医療的ケアが必要な難病患者や小児慢性特定疾病児童等の安全を守るため、自治会や民生委員・児童委員等支援関係者とともに個別の行動計画の策定を支援します。

イ 暮らしの安心まちづくりの推進

□家畜伝染病や有害鳥獣に対する備えを強化します。

- 家畜伝染病対策をはじめ様々な危機事象への迅速・的確な対策を講じ、安心・安全で住みやすい京都丹波をつくります。
- 府内で最も畜産が盛んな地域であるため、豚熱（CSF）や高病原性鳥インフルエンザ等の発生防止に向け、南丹家畜保健衛生所等と連携し、野生鳥獣の侵入防止など万全の衛生対策を推進します。また、発生時に必要な資材や人員などの防疫体制を整備するとともに、総合訓練などを実施して発生に備えます。
- 市町や有害鳥獣捕獲班員と連携し、ICT機器を活用した捕獲檻の導入などにより捕獲者の負担軽減を図るとともに、地域ぐるみの捕獲に取り組みます。また、猟友会等による食肉処理加工施設の整備を支援し、狩猟から捕獲、ジビエの利活用や販売促進活動など、総合的な対策を推進します。
- ツキノワグマの人身被害の防止に向け、市町や警察、猟友会との連携による出没防止対策や緊急銃猟に対する取組を支援します。

□生涯にわたって健康に暮らせる地域づくりを推進します。

- 急性期から回復期、在宅療養に至るまで、切れ目なく医療が提供できるよう、地域医療支援病院である京都中部総合医療センターを軸にした圏域医療機関の医療分担を図り、地域の実情に即した広域的な地域医療連携体制の整備を進めます。
- 新型コロナウイルス感染症等新たな感染症への危機対策として、市町や医療機関等と連携を図りながら、感染の予防や拡大の防止に向けた体制づくりを推進します。
- 高齢者施設などにおける感染性胃腸炎、インフルエンザなどの集団感染については、発生時に早期終息を図るため、発生の早期探知や施設での対策への助言を行います。また、施設職員への研修等を実施し、施設内の体制整備を支援します。
- 認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、本人や家族のニーズと市町の認知症サポーター等の支援をつなぐ仕組み（チームオレンジ）の立ち上げ支援や認知症カフェ等の居場所づくりなど、多様な主体の参画による認知症総合対策を進めます。
- 京都丹波福祉職場応援プロジェクト促進会議を中心に、医療・福祉の担い手の確保を支援します。
- オール京都丹波で地域の特性に応じた府民の生涯にわたる健康づくりを府民運動として推進するため、7つの生活習慣（栄養・食生活、身体活動・運動、喫煙、歯と口腔の健康、休養・睡眠、飲酒、こころの健康）について、現状分析や啓発を行います。
- 野菜たっぷり、減塩や低栄養予防に配慮した「なんたん・かんたん・やさい料理レシピ」をホームページ等において普及啓発を行い、心疾患、腎疾患、糖尿病の予防を進めます。
- 住民主体の介護予防を推進するため、「なんたん元気づくり体操」や「お口の健康体操」、適切な栄養・食事の摂り方を普及し、総合的な健康づくりを進めます。

□交通安全対策を推進します。

- 交差点や橋りょう、横断歩道、道路表示板、トンネル等の照明のＬＥＤ化を推進し、交通安全の確保を図ります。
- 市町教育委員会・警察・道路管理者が連携して実施した通学路合同点検で、対策必要箇所として抽出された箇所において、歩道整備等の安全対策を推進します。

□京都丹波の豊かな自然環境を保全します。

- 天然記念物であるアユモドキをはじめ多くの生物の生息環境の保全・再生等を、市町やＮＰＯ等地域活動団体、住民等との協働により推進します。
- 森林・林業・木材関係者と連携し、木材利用コンクール（もくもくコンクール）等の木育・森林環境教育や府内産木材の利用拡大の取組を推進することで、森林整備の必要性や木材利用の意義について理解促進を図るとともに、CO₂ 吸収など森林の公益的機能の増進に向けて、間伐に加え、皆伐・再生林による「伐って、使って、植える」循環型の森林整備を推進します。

（２）誰もが希望を持って活躍できる「はぐくまれる京都丹波」

ア 「子育て環境日本一」の京都丹波の実現

- 子育て支援団体、経済団体、関係行政機関等で構成される「京都丹波子育て文化推進協議会」において、子育て支援に係る様々な課題を協議し、オール京都丹波で、この地域が子育て世代に魅力がある地域と実感できる取組を進めます。
- 豊かな自然や歴史文化など特色ある地域資源を生かし、子どもたちの京都丹波ならではの探究的な学びや体験機会を創出する「京都丹波STEAM（仮称）」を推進します。
- 地域において子どもを産み育てやすい環境を整え、地域全体で妊産婦や子育て家庭を温かく見守り支える気運を醸成する「子育て応援フェスタ」等を関係機関等と連携し開催します。
- 京都丹波の子どもたちの作品を一堂に展示する「京都丹波美術工芸教育展」をはじめ芸術分野やスポーツ分野において校区や校種、年齢を越えた交流を行うことにより、次世代の地域づくりの担い手を育成します。
- 地元高校生等が子どもたちと交流する機会を提供し、子育てに対する夢や希望を育む意識を醸成します。
- 発達障害児支援の専門機関である花ノ木児童発達支援センターをはじめ、医療、保健、福祉、教育などの関連分野が連携して一貫した支援が実施できるようネットワークの強化等を進め、発達障害のある子どもとその家族を支援します。また、不登校、ひきこもりなどの状態にある方について、それぞれの個性を理解し、その方に合った社会参加を、ＮＰＯ等地域活動団体と連携しながら、促進します。

イ 誰もが生き生きと暮らせ、人権が尊重される社会の実現

□人権が尊重される地域づくりを推進します。

- 部落差別や、女性、障害者等に対する差別、ヘイトスピーチ、ＬＧＢＴ等性的少数者の問

題など様々な人権課題に対して、人権強調月間や人権週間での街頭啓発、市町の実施する啓発事業への支援や、人権問題法律相談などにより、効果的な啓発や相談体制の整備に取り組めます。

□NPO等地域活動団体やボランティア等との協働による地域づくりを推進します。

- 地域住民等による持続的な地域活動を進めるため、NPO等地域活動団体の交流会やセミナーの開催や多様な主体の参画による地域活動の促進、訪問による活動支援など、市町と連携した京都丹波パートナーシップセンターの取組を展開します。
- 住民主体の地域課題解決の取組を「地域未来づくりプロジェクト交付金」により支援し、活動の裾野を広げます。
- 亀岡市の「セーフコミュニティ」の活動を支援するとともに、京都丹波全域に「セーフコミュニティ」の理念を広げ、安心・安全な地域づくりを進めます。
- 関係団体等と連携した京都丹波の暮らしの魅力などの情報発信を強化し、地域に関心を持つ国内外の人々との関わりを創出することで、関係人口の拡大を図り、移住促進とともに多様なライフスタイルの実現を支援します。
- 中山間地域等における持続可能な農山村コミュニティの創出を図るため、市町等と連携し、集落等による地域活動の維持・活性化に向けた取組を支援するとともに、移住者等が地域の担い手として活躍できるよう、地域とのつながりづくりやコミュニティ参画を促進します。

□高齢者や障害のある人等、支援を必要とする人の生活支援・社会参画を推進します。

- 南丹圏域障害者総合相談支援センター「結丹」や障害児者総合支援ネットワーク「ほっとネット」を核として、障害者のライフステージ全般にわたる総合支援体制の充実を図り、障害者が住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう支援します。
- 障害者の収入増を図るため、オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」等の商品の販売促進を強化します。
- 通院・買い物等で高齢者の移動支援などに取り組むNPO等地域活動団体の活動を支援します。また、デマンド交通などの導入による地域内の移動・交通手段の確保を支援します。

(3) 魅力と活力にあふれる「輝く京都丹波」

ア 豊かな自然・歴史文化や食などの地域資源を生かした京都丹波ブランドの発信

□京都丹波ブランドを全面に出したイメージ戦略を推進します。

- 様々なイベントや各種広報物において「京都丹波」の統一的な名称使用を進めるとともに、SNS等のデジタル媒体を活用した戦略的な情報発信により、京都丹波の地域ブランドの認知度向上と浸透を図り、国内はもとより世界に向けてその魅力を発信します。
- 道の駅等の集客拠点が連携した一体的なプロモーションの実施により、「心身の健康を育む食と緑の地域」というブランドイメージの浸透を図ることで、地域の認知度向上と誘客促進につなげます。

- 多様な主体の視点を生かし、京都丹波の地域資源を活用した新たな魅力あるコンテンツの発掘・磨き上げを進めるとともに、管内フィルムコミッション等との連携を通じて京都丹波ファンや関係人口の拡大をめざします。
- 「第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波」の開催を通じて、管内2市1町と一体的に取り組んだ「京都丹波」としての連携を今後の地域づくりに生かします。

□ 京都丹波の豊かな地域資源を生かしたにぎわいづくりを推進します。

- 京都丹波高原国定公園ビジターセンターや芦生の森、美山かやぶきの里などの観光資源を生かし、森の京都DMOや大丹波連携推進協議会等と連携して、観光資源の磨き上げや周遊ルートの形成、観光プロモーションを推進し、京都丹波への誘客と交流人口の拡大を図ります。
- 京都舞鶴港や関西国際空港等を利用して京都市を訪れるインバウンド旅行者や国際イベント来場者の京都丹波への誘客を促進するため、京都府観光連盟や森の京都DMO等と連携し、海外向けの情報発信やプロモーションを強化するとともに、地域資源を生かした周遊・滞在型観光の充実を図ります。
- 東洋医学における、よりよく健康に、楽しく生きる「養生」の考え方にに基づき、豊かな森や清流、食文化など京都丹波ならではの地域資源を生かし、訪れる人々の心と体を整えるウェルネスツーリズムを推進します。
- 市町やNPO等地域活動団体、企業等との連携により、食や自然・歴史文化、スポーツなど京都丹波の魅力を体感できるイベントを開催し、京都丹波の魅力を広く発信します。
- イベントやメディアを通じた京都丹波のスイーツやグルメの地域内外への情報発信により、いちおし食材等における観光コンテンツとしての魅力・価値を高め、京都丹波への「食」を目的とした観光誘客を促進し、「食の京都」の取組を推進します。
- 地域外からの教育体験の受入を推進し、地域外の子どもたちと地域住民との持続的な交流を生み出すことで、若年層を中心とした都市部住民の京都丹波への関心を高め、将来にわたって地域と多様な形で関わる関係づくりを促進します。
- 地域アートマネージャーや管内施設学芸員、文化観光サポーター、地域の文化団体等と連携し、京都丹波の自然や歴史、伝統芸能に着目した地域文化の継承支援や文化財活用による観光振興に取り組むなど、地域の活性化を推進します。
- 「保津川かわまちづくり計画」に基づき、保津川が有する広大な水辺空間を活用して、亀岡市と連携しながら芝生公園、河川管理用通路等、自然を感じつつ様々な交流・ふれあい活動ができる場を創出します。

イ スポーツ資源等を生かした交流等の促進

- 府立京都スタジアムや府立丹波自然運動公園、京都トレーニングセンターなどのスポーツ拠点や、豊かな自然環境を生かし、誰もが生涯を通じてスポーツに親しめる環境の充実を図り、府民の健康・体力づくりを進めます。
- スポーツ大会やスポーツイベント、合宿等の誘致に取り組むとともに、ウォーキングやニュースポーツ、eスポーツ、パラスポーツ等を推進し、世代や障害の有無を問わず、スポ

ーツを通じて多様な交流機会を創出します。

- 「森の京都を歩こう！京都丹波健康ウォーキングマップ」や「京都丹波サイクルルート」の活用普及により、森の京都の豊かな自然や歴史文化を生かした健康づくりを推進します。
- 京都トレーニングセンター等と連携しながら、子どもたちの潜在的なスポーツ能力の可能性を広げるため、体力測定事業の活用を通じて体力づくりを推進します。
- 京都トレーニングセンターを核として、国の機関や大学、競技団体等との連携により、地域のジュニアアスリートの育成やトレーニング機会の充実を図ります。
- 府立京都スタジアムのeスポーツ施設等を活用し、eスポーツの体験・交流イベントの開催や、関連事業者・教育機関等と連携したIT関連人材の育成等に取り組むことにより、多様な人々の来訪や交流を促進します。
- 府立京都スタジアム周辺の道路について、亀岡市等と連携して歩行者空間の拡幅を行うことで、歩行者の利便増進や施設の利用促進を図ります。
- ワールドマスタースゲームズ 2027 関西のような国内外から多くの参加者が集う世界規模のスポーツ大会の開催の機会を捉え、商工団体等と連携して地域のにぎわい創出につなげます。
- 京都サンガF.C.の本拠地である府立京都スタジアムの集客機能を生かし、選手との交流機会の創出や商店街や地域事業者等による京都丹波地域内の周遊促進を図ることで、にぎわい創出、さらには地域経済の活性化につなげます。

ウ 京都丹波の産業を担う輝く人づくり

- 未来の地域産業を支える人材が、京都丹波で働くこと、住むこと、そして新たな挑戦にかける思いを地域内外に発信する「京都丹波の輝く担い手交流会（仮称）」を開催するなど、人材交流と活動発信の場づくりを進め、京都丹波で新たなことにチャレンジする機運を醸成します。
- 高校、高等教育機関等と連携し、京都丹波で輝く担い手の活動紹介やワークショップ等を通じて京都丹波で働くことの魅力発信を進めます。
- 大規模経営者から少量多品目栽培の新規就農者まで様々な農業経営体が食生活様式の変化に伴う消費者ニーズに対応できるよう、産業支援機関や企業、地域商社等と連携した支援を行い、京都丹波の食の担い手として育成します。
- 南丹高等学校テクニカル工学系列と地元パートナー企業との連携を促進し、ものづくりを担う人材の育成、製造現場を支える技術・技能の継承を地域ぐるみで支援するとともに、管内の高校生等が地元企業の魅力や役割を理解する機会を充実させ、若者の地元定着を促進します。
- 林業の担い手確保に向け、府立林業大学校及び地域の関係者と連携し、高校生、大学生及び社会人を対象とした林業体験・地域体験を実施することで、林業と地域の魅力の発信を強化し、府立林業大学校への就学や地域の林業事業体への就業、移住・定住につなげる取組を推進します。

エ 農林水産業を支える持続可能な産地づくり

- 担い手が不足し今後の営農が危ぶまれる地域農業の維持・発展のため、集落営農組織や農企業者等が取り組む加工・販売、法人化の支援を進めるとともに、集落営農の経営力強化に向けた農地の集約化や組織体制の強化、就業者の育成・確保を支援します。
- 営農を展開するための基盤づくりとして、国営ほ場整備事業亀岡中部地区をはじめとした生産基盤整備事業による区画整理を推進し、担い手の経営強化や生産の効率化を下支えします。また、亀岡中部地区を中心に京野菜等の高収益型作物の導入による産地育成を進めます。
- 四季折々の旬の食材を用いたグルメや有機農業等による農産物・加工品など健康志向に対応した商品の開発や販売を促進し、地域産品の高付加価値化を推進します。
- 食味ランキングの特A獲得をめざす水稻や黒大豆、小豆、京野菜など日本を代表する京都丹波の農畜産物の生産拡大と品質向上に向け、地域農業の生産体制の強化に取り組むとともに、スマート農業（ICT活用等）等の先進技術の取組や高温・猛暑・渇水等の気候変動に対応した取組を農林水産技術センターとも連携して推進します。
- 有機農業の推進に向けてオーガニックビレッジ宣言を行った亀岡市をはじめ、各市町とも連携して、生産者に対し、学校給食に利用される有機栽培米や特別栽培米等の安定生産に向けた技術支援を行うとともに、環境負荷低減活動の計画を認定する「京都府みどり認定」の取得を推進します。また、直売所とも連携し、有機農産物や「京都府みどり認定」を取得した農産物のPRと販路開拓を支援します。
- 南丹家畜保健衛生所を中心とした「京の畜産応援隊」と連携し、農林水産大臣賞を獲得した京都丹波産和牛の生産拡大や飼料高騰対策、畜産物の販路開拓、加工品開発など畜産農家の企業的な経営の取組を支援します。
- 丹波くりの生産拡大を図るため、せん定をはじめとした適切な栽培管理方法の普及を進めます。また、中核的生産者により設立された「京都丹波くり研究会」等の生産者団体やJA、市町と連携し、生産者間のネットワーク強化と高度な栽培技術の普及により、丹波くりのブランド価値を高めます。
- 森林組合等の林業事業体、木材市場、木材加工流通業者、工務店など、川上から川下までの関係者の連携によるサプライチェーンの取組を推進し、地域産材利用の拡大を図ります。
- 市町等の関係機関と連携し、全国的に名高い“美山川の鮎”をはじめ良質な鮎の増殖や販路の拡大を支援するとともに、観光資源として活用するために「京都・丹波あゆ街道」の取組等と連携し、地域内外への効果的なPRを進めます。

オ 企業の成長と地域経済の好循環による商工業振興

- 高速道路等の交通ネットワークや企業集積の強みを生かして、新たな産業用地の整備を支援するとともに、多様な分野の企業誘致を促進し、良質な雇用の創出や投資効果の地域への波及を通じて、地域経済の好循環を創出します。
- 地域内企業が抱える、人材確保・育成や販路開拓、事業承継、DXへの対応など多様化・複雑化する経営課題に対して、関係支援機関の連携・協力のもと伴走型支援を展開し、企業の変革と成長を後押しすることで、地域産業の競争力強化と地域経済の持続的発展につ

なげます。

- 管内中小企業のネットワーク形成や、「オープンイノベーションセンター・亀岡」をはじめとする産学公連携を促進し、企業の課題解決や新たな事業展開を支援するとともに、若者にとって魅力ある企業の育成を推進します。
- 商店街創生センターと連携し、地域内の企業やまちづくり団体など多様な主体のネットワーク化を進め、地域住民がふれあえるコミュニティの場として商店街の振興を図ります。
- 市町の地域商社、商工関係団体等と連携し、京都丹波で輝く担い手のこだわり商品の商談会を開催するなど販路開拓を支援します。
- 明治国際医療大学等と連携し、東洋医学の知見（養生）や食・森林・農など京都丹波ならではの地域資源を生かしたウェルネスプログラムの充実を図るとともに、企業の健康経営を推進し、働く人の心身の健康増進と企業の持続的な成長を支援します。
- 関係機関等と連携し、職場体験等を活用しながら、移住者等への就労機会の提供に取り組む地域内企業、福祉事業所等を掘り起こすとともに、W e b サイト等で企業の魅力を広く情報発信します。
- 地元企業や地域のシルバー人材センターをはじめとする関係団体等と連携し、人材育成・活用を進めるとともに、省力化等をめざした生産工程の自動化等による人材不足の解消に取り組みます。

（４）人とモノの交流を支える基盤となるインフラ網の整備

ア 京都縦貫自動車道からのアクセス道路の整備促進

- 京都縦貫自動車道からのアクセス道路など地域の生活や地域産業を支える交通ネットワークの整備を進めます。
- 阪神地域と亀岡市街地を結び、緊急輸送道路ネットワークを確保するとともに、地域産業の振興等に寄与する国道 423 号（法貴バイパス）の整備を推進します。
- 緊急輸送道路ネットワークを確保するとともに、地域産業の振興等への寄与や大阪方面との交流拡大が期待できる枚方亀岡線及び茨木亀岡線の整備を検討します。
- 京都市と亀岡市を結ぶバイパス等のネットワーク強化を促進します。
- 国道 9 号の交通安全対策を促進するとともに、国道 9 号下矢田交差点までの枚方亀岡線の整備を推進します。
- 幅員狭小で線形不良のため大型車の離合が困難となっている綾部宮島線（肱谷バイパス）等の整備を推進します。
- 災害時等における孤立集落の発生を防止するとともに、広域的な交流拡大が期待できる国道 162 号及び京都広河原美山線の整備を検討します。
- 亀岡市川東地区と亀岡市街地を結び、地域振興にも寄与する亀岡園部線の整備を推進します。
- J R 山陰本線沿線全体の公共交通サービスの改善に取り組むとともに、鉄道駅や主要バス停の乗継利便性や待合快適性の向上、交通系 I C カードシステム等のキャッシュレス化の拡充を促進します。

イ 桂川等の河川整備の推進

■治水安全度の向上に向けた河川整備をまちづくりと一体的に推進します。

- 「桂川上流圏域河川整備計画」に基づき、治水安全度の着実な向上を図ります。
- 国が設置する淀川流域治水協議会及び由良川流域治水協議会において情報共有・意見交換しながら、「治水効果の見える化」を図ります。
- 桂川の治水安全度を向上させるため、国による嵐山地区での河川整備の進捗を踏まえ、上流、下流のバランスにも十分配慮しながら、河川整備を計画的かつ着実に進めます。
- 園部川、千々川、東所川、雑水川及び七谷川について、桂川改修との整合を確保しながら治水安全度の向上を図るため、河川改修事業を推進します。
- 「由良川上流圏域河川整備計画」に基づき、治水安全度の向上を図るため、高屋川、大朴川、須知川について、浸水被害の軽減に向けて、護岸整備等の河川改修事業を推進します。
- 篠原西一谷川、上乙見川、谷山川、西谷川及び塩谷一谷川について堰堤の新設を、津の本谷川、清谷川、年谷川、池ノ谷川及び葉婦川について既存堰堤の改良を推進します。

南丹地域振興計画の数値目標

(1) 暮らしを支える「安心の京都丹波」

指標名称	単位	基準値	数値目標
地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	%	27.1 (2025 年度)	35.0
自主防災組織タイムライン策定数（累計）	件	43 (2025 年度)	60
住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	%	84.5 (2025 年度)	90.0

(2) 誰もが希望を持って活躍できる「はぐくまれる京都丹波」

指標名称	単位	基準値	数値目標
住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	%	84.5 (2025 年度)	90.0
体験型学習事業の参加者数	人	2,500 (2025 年度)	2,900
京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっていると思う人の割合	%	31.8 (2025 年度)	50.0
趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある人の割合	%	75.1 (2025 年度)	80.0

地域振興計画に掲げた取組について、その進捗を客観的に評価するため、計画の最終年度（2030年）における数値目標を設定します。

※他の計画に位置付けられた数値目標を本計画において設定しているものについては、他の計画の期間満了等によりその計画が改定された場合は、改定後の計画で位置付けられた数値目標に置き換えるものとします。

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
地域の防災、防犯体制の強化・充実により、約10ポイントの増加をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	2027年度：29.0 2028年度：31.0 2029年度：33.0	ア
防災士を派遣し、講習会や防災訓練等を通じてタイムライン策定を支援することにより、2030年度に累計60件をめざす	南丹広域振興局による実態把握	2027年度：47 2028年度：51 2029年度：55	ア
地域包括ケアシステムの充実や地域交通等、暮らしやすい地域づくりの推進により、約5ポイントの増加をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	2027年度：86.0 2028年度：87.0 2029年度：88.0	イ

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
子育て環境の充実を進め、早期に90%をめざし、この数値を維持していく	京都府民の意識調査（京都府）	90.0 （毎年度）	ア
地域資源を生かした体験機会の創出を通じて、2030年度に2,900人をめざす	南丹広域振興局による実態把握	2027年度：2,600 2028年度：2,700 2029年度：2,800	ア
人権尊重の取組を進め、50%をめざす	京都府人権尊重の共生社会づくり施策推進計画に関する府民調査（京都府）	—	イ
地域住民の活動支援により80%をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	80.0 （毎年度）	イ

(3) 魅力と活力にあふれる「輝く京都丹波」

指標名称	単位	基準値	数値目標
管内の道の駅利用者数	千人	3,136 (2025 年度)	3,330
森の京都エリアの観光消費額単価	円	4,400 (2025 年)	6,600
歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	%	80.8 (2025 年度)	90.0
管内スポーツ施設（府立京都スタジアム、京都トレーニングセンター）の利用者数（観客数を含む）	千人	601 (2025 年度)	617
新規就業者数（農林業）（累計）	人	26 (2024 年度)	156
従業者 1 人当たりの粗付加価値額（製造業）	千円	15,452 (2025 年)	20,000

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
道の駅等の交流拠点が連携した一体的なプロモーションや周遊促進に取り組み、地域内外からの誘客と利用機会の拡大を図ることで、2030 年度に 3,330 千人の達成をめざす	南丹広域振興局による実態把握	2027 年度:3,180 2028 年度:3,230 2029 年度:3,280	ア
目標年に基準年の約 1.5 倍	京都府観光入込客等調査（京都府）	2027 年:4,950 2028 年:5,500 2029 年:6,050	ア
歴史的な文化遺産や文化財などを社会全体で守る取組を進め、90%をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	90.0 （毎年度）	ア
スポーツ大会やスポーツイベント、合宿等の誘致を進めるとともに、付帯施設の活用拡大を図り、2030 年度に 617 千人をめざす	京都府文化生活部による実態調査	2027 年度:579 2028 年度:591 2029 年度:603	イ
京都丹波で活躍する担い手の活動発信や人材交流の促進、高校や高等教育機関等と連携した魅力発信により、2030 年度に累計 156 名の確保をめざす	京都府農林水産部による実態調査	2027 年度:39 2028 年度:78 2029 年度:117	ウ
目標年に基準年の約 1.3 倍	経済構造実態調査（経済産業省）	2027 年:16,600 2028 年:17,800 2029 年:18,900	オ

参考資料

南丹地域振興計画検討懇話会名簿

(令和8年6月現在)

氏名	役職等
座長 三村 徹郎	京都先端科学大学バイオ環境学部 学部長
秋津 元輝	明治国際医療大学 教授
伊藤 和憲	明治国際医療大学鍼灸学部 教授
稲村 智子	亀岡商工会議所女性会 会長
奥山 理子	社会福祉法人松花苑 みずのき美術館 キュレーター
黒川 孝宏	亀岡生涯学習市民大学 学長
永塚 則昭	公益財団法人南丹市情報センター 理事長
並河 杏奈	(一社) Fogin 代表理事
樋口 義昭	京丹波森林組合 代表理事組合長
藤田 義幸	(一財) 和知ふるさと振興センター 理事長
松永 敬子	龍谷大学 経営学部教授
山口 桂子	NPO法人グローアップ 代表理事

(五十音順(座長除く)・敬称略)